

# カネで阻まれた家畜福祉

## 世界で孤立する日本の養鶏業界



日本の採卵鶏の多くはケージ飼いで飼われている。1羽あたりB5～A4ほどのスペースにすし詰め状態、産卵箱や止まり木もなく鶏は消耗品として扱われる(中央下の写真)。脚や卵巣などの病気も多い。安価な卵は彼女たちの犠牲によって供給される(提供：認定NPO法人アニマルライツセンター)

北海道2区選出の自民党衆議院議員だった吉川貴盛・元農水相が養鶏業界大手「アキタフーズ」(広島県福山市)の前代表から現金1800万円を受領していた疑惑をめぐり大きな波紋が広がっている。前代表が多額の裏金を渡していたのはOIE(国際獣疫事務局)が進めるアニマルウェルフェア(AW・家畜福祉)の国際基準づくりを阻もうとしたからだ。業界の意向を受けた農林水産省が基準の策定に異議を唱えた結果、日本のAW推進にブレーキがかかった。「脱ケージ」に舵を切った世界の潮流に逆光する日本政府のAW政策はこれでいいのか——贈収賄疑惑の背景にある採卵鶏のアニマルウェルフェア問題に焦点をあて、これまでの歴史や生産現場の実態などを紹介したい。

(ルポライター・滝川康治)

### 鶏卵業界と政治家の癒着が「贈収賄疑惑」で浮き彫りに

正月早々、「吉川元農水相、計1800万円受領か 在任中の前後にも」と『朝日新聞』がスクープした(1日)。

本」と題する真下周記者のレポートを配信している(www.47news.jp/47reporters/5589123.html)。「ケージには巣、砂場、止まり木などを置くスペースは全くありませんでした。そんな環境下でもニワトリは尾腺からクチバシで脂をすくって羽の手入れをしていました。膨らませた体を金網にこすりつけ足で床を引っかいて、土を羽毛の間に取り込もうとするしぐさもありました。

しかし、虫干しできる日光も砂浴びの砂もなく、本能が満たされることはありません。生き物としての尊厳が無視されていると感じました。」東日本の大規模養鶏場で働いた経験がある女性が語る、過酷な飼育環境を伝える長文の記事だ。多くの人に読んでほしい。贈収賄疑惑の原資は、こうした鶏たちを犠牲にするこ

### 近代畜産を見直すきっかけは『アニマル・マシーン』の告発

採卵鶏用のケージは百年ほど前にイギリスやアメリカで開発され、戦後の日本にも普及していった。1954年生まれの筆者の少年時代、どこの農家も30〜40羽の鶏を飼っている、卵や肉を貴重なタンパク源にした。餌やりなどは子どもの仕事で、余った卵の販売代金が弁当のおかずや学用品になる。まさに「庭の鳥」(鶏の語源)であった。そんな道北農村地帯でケージ飼い養鶏が始まったのは60年代後半と記憶する。

### OIE基準の策定に反対する養鶏業界の役員が現ナマ攻勢

日本を含む182の国・地域が加盟するOIE(世界動物保健機関・旧名国際獣疫事務局)は、02年の総会でアニマルウェルフェアの国際基準を作成することを決めた。

日本の養鶏業は「密飼い」と「輸入穀物の多給」が特徴だ。採卵鶏の多くは、細い針金を格子状にして作られたケージを幾段にも重ねた中にぎゅう詰めにして飼育される。



東京地検特捜部が収賄容疑で調べを進める吉川貴盛元農水相

農水相に対する1500万円超の現金提供も供述したと続報。いずれも特捜関係者のリークに基づく記事だが、本号の発行時には立件されている可能性もある。前代表が農水族の政治家に現金を渡そうとした理由は、①採卵鶏のケージ飼いに否定的なアニマルウェルフェアの飼育基準案を示した国際機関の動きに反対する②鶏卵価格の低下時の損失補てん事業への便宜供与を求めたとされる。世界的な「脱ケージ飼育」の潮流に対応できぬ業界と、アニマルウェルフェア(AW)に対する見方を変えられない旧態依然の政治や行政のありようが今回、あらためて浮き彫りになった。

### 贈収賄疑惑に注目が集まってきた

昨年12月10日、共同通信は「ニワトリの閉じ込め飼育続ける日





ケージ飼育とは対照的に「放し飼い」で鶏を飼う農場も (栗山町のThe北海道ファームで)

界関係者や技術研究者、学識経験者、消費者らと意見を交換する「OIE 連絡協議会」を続けてきた。

OIEは18年9月、産卵箱や止まり木の設置などを義務づけ、ケージ飼育改善を図る国際基準の第2次案を示した。国際鶏卵委員会(IEC)のデータによると、日本のケージ飼育の割合は95%と極めて高い。(一社)日本養鶏協会は、この案が採択されると業界に大きな打撃を与えるとして同年12月、当時の吉川農水相に反対の要望書を提出した。

農水省は翌19年、第2次案に反対する意見を2回にわたりOIEの関係委員会に提出する異例の対応をみせ、同年9月のOIE第3次案では産卵箱や止まり木の設置義務が削除されてしまう。

05年総会で家畜の輸送や屠殺などの基準が採択され、12年からは畜種別の飼育基準の策定が進行中だ。すでに、肉用牛(12年)やブロイラー(13年)、乳牛(14年)の基準を採択した。EU(欧州連合)は12年に採卵鶏のケージ飼育の禁止を決定しており、アニマルウェルフェアの推進は世界の潮流になっている。

こうした状況下で、農水省消費・安全推進課は10年度から年2回、業

参照しては「gendaismedia.jp/articles/-/78313」。

### 農水省はAW推進に及び腰 委嘱した委員の疑問を黙殺

贈収賄疑惑に発展した養鶏業界と政治家との癒着の構図は、日本のAW政策が旧態依然であることを物語る。OIE連絡協議会の委員を務めるNPO法人日本消費者連盟顧問の天笠啓祐さんは12月17日、以下の3項目を農水省に文書で質した。

①今回の現金授受は当協議会での議論に絡んだものとされるが、その経緯をお聞かせください

②政府の対応は国際的な動きからかけ離れているが(国際基準の後退に対して)影響がなかったのか

③(基準について)最初から議論をやり直すことは出来ないのか

翌日開催された協議会では、この問いかけは黙殺された。農水省のやる気のなさを感じてきた天笠さんは、「国際基準の中身をめぐって裏金が動いたなんて想像もしなかった。今回、日本の政治の決め方を知り、びっくりしました」と憤る。

農水省は協議会の議事録を公開しおらず、国民は委員の発言を確認

できない。「アキタフーズ」前代表の

息子が協議会の臨時委員を務めたこともある。協議会の関係者は「農水省が基準づくりのストーリーを作り、御用学者や行政が業界団体をバックアップする場になっている」と指摘する。OIEもまた各国の利害調整の場と化し、国際基準は次第に骨抜きにされていく。そのしわ寄せは虐げられている家畜に向かう。

しかし、「脱ケージ」に象徴されるAW推進の流れは静かな広がりを見せる。北海道では数年前から小規模生産者とコープさっぽろが提携して平飼い卵を販売し始め、取扱高を伸ばす。道外の生協や宅配事業者、一部量販店などでも「ケージフリー」の取り組みが進んでいる。

農水省は、関係業界との癒着を根本から見直し、先進的なアニマルウェルフェアの実践例を消費者へ積極的に紹介したり、「脱ケージ」をめざして施設の整備を進める生産者を支援するなど政策転換を図るべきだ。

(1月4日現在)

※別項で世界の「脱ケージ」の動きを伝えた大木茂・麻布大学教授の講演要旨を紹介する(主催：NPO法人さっぽろ自由学校「遊」)。

## 「鶏をめぐる家畜福祉公開セミナー」の講演から

# 「脱ケージ」は世界の潮流だ

麻布大学獣医学部教授(農業経済学) 大木茂さん

### ケージ飼育は過去のものに 転換が進む欧州や米国の実態

日本では、採卵鶏の飼養方法として直列つなぎのバッテリーをイメージした「バッテリーケージ」や改良型の「エンリッチドケージ」があり、ケージフリーは「平飼い」「多段式の平飼

い」に区分されます。また、国際的な区分として、より自由度が高い「フリーレンジ(放し飼い)」や「オーガニック(有機)」があり、アメリカでは新しいカテゴリとして「パスチャーレイズド(牧草育ち)」が確立してきました。

育する方法ですが、日本では細かな規定はありません。「放し飼い」は屋外で1平方メートルあたり5羽以下のスペースで飼育すること。「オーガニック」は屋内・屋外とも1羽あたり0.15平方メートル以上の面積で飼育され、有機栽培された飼料を食べると規定されています。



(おおき・しげる)1986年、宇都宮大学農学部畜産学科卒業。同大大学院で農業経済学を学んだのち、東京農工大大学院連合農学研究科の博士後期課程修了。博士(農学)。2000年から麻布大学に勤務し、現在に至る。鶏卵を中心に、アニマルウェルフェアに配慮した畜産食品の生産・流通・消費の動向に明るい。畜産情報誌などに関連の論文多数。AWFCJ(アニマル・ウェルフェア・フード・コミュニティ・ジャパン)の監事も務める

(公社)畜産技術協会の「アニマルウェルフェアに対応した飼養管理指針」では、日本の普通のケージは、「1羽あたり飼養スペース430×555平方センチ」を推奨していますが、これをクリアしているところは多くありません。一方、ヨーロッパでは「エンリッチドケージ」が最低基準であり、1羽あたり飼養スペースは750平方センチ以上と規定されています。日本の1羽あたり専有面積は非常に狭いものです。

IEC(国際鶏卵委員会)のデータによると、2009年以降、スイスやオーストリアでは非ケージ飼育の割合が100%近い状態が続いており、イギリスでは全体の半数近くが非ケージになっています。18年のデータでは、ドイツはケージ飼育6%に対し、平飼い64%、フリーレンジ19%、オーガニック11%と、脱ケージが進行中。アメリカでも10年ほど前に5%だった非ケージの割合が15%程度まで増えています。

一方、日本ではケージ以外の飼いは5%しかありません。IECのデータでは5%程度が平飼い卵とされていますが、実際の市場シェアは1%程度。その差を宅配事業者などがうまく組織化し、中間流通ロスの削減を行ってきました。そこに日本の平飼い卵のメインストリームがあるのかな、と考えています。

動物保護団体の「ザ・ヒューメイン・リーグ・ジャパン」が日本国内の企業の動向をまとめています。宿泊部門ではヒルトンホテルやマリオネットホテル、インターコンチネンタルホテルなどが25年までにケージフリー卵調達への変更を表明済みです。小売業界でも、業務用食材卸売



台湾のアニマルウェルフェア関連規制は40年ほど前までさかのぼります。86年に日本のJASに相当する優良農産品の認証が始まり、99年には平飼い卵グループの中心になる組織が発足。ヨーロッパのエンリッチドケージの取り組みに先駆けて活動が始まっています。14年には鶏の動物福祉に関するガイドライン

「メトロ」全10店が27年までに全てケージフリー卵に切り換える」と発表。関東地区の「イオン」24店舗では、平飼い卵の販売を開始しています。

わたしたちが18年に神奈川県内で実施した調査では、安い価格で平飼い卵が売られるようになり、6個パック平均で344円程度、低価格のものは230円程度でした。平飼い卵の品揃えが増え、PB（プライベートブランド）で展開したり、高級スーパーではヨード強化卵より低価格で売られるようになってい



日本国内でも「平飼い卵」などの取り扱いが広がりを見せる (大木さん配布資料)

も制定されました。そうしたなかで、18年には非ケージ卵の取り組みが本格化してきたのです。台湾の基準では、1平方メートルあたりの採卵鶏は9羽——つまり1羽あたり0・11平方メートル——とされています。これは、イギリスの数字とほぼ同じです。また、カルフルでは脱ケージの取り組みがス

ケージの卵よりフリーレンジの卵、さらにオーガニックの卵がより高く売られています。イギリスで重要なのは16年ころから「脱ケージ宣言」をするスーパーが増えていることです。ウェイトローズ、マックス&スペンサー、セインズベリーズ、テスコが四大スーパーと呼ばれています。が、(庶民的な)セインズベリーズが「ケージ卵は扱いません」と宣言し、安売りスーパーも後に続くことになりました。高級スーパーでは元々、ケージ卵は扱っていません。

「脱ケージ宣言」はヨーロッパ全体で進んでいます。EU(欧州連合)には域内の市民百万人が賛成すれば法的規制を提案できる「欧州市民イニシアチブ」というシステムがある。18年9月には「ケージの時代は終わる」と題されたイニシアチブが登録され、19年6月までに110万人を超える署名を集めました。欧州委員会に正式な返信をして、これが法律として提案される予定です。

動物の行動の自由を求める提案が承認されました。これにより13年にカリフォルニア州食料農業省(CDFA)のセクションが開始され、そこから大きく変わってきた。18年には「カリフォルニア州動物虐待防止法」の法律化が決まり、採卵鶏1羽の専有面積を最低929平方センチとする基準を決めたのです。カリフォルニアは米国のなかで人口が一番多いのですが、卵に関する文化の先頭を進むことで変わってきました。22年からは面積規定だけでなく、

ケジュール化されています。台湾の基準は、イギリスのRSPCA(王立動物虐待防止協会)が作った採卵鶏の基準と同じくらい詳細な中身になっており、これを作る時に職員を呼んで学習会をやり、行政の担当官も出席したそうです。台湾のアニマルウェルフェア鶏卵の取り組みは、かなり本気だなど思いました。

韓国では政府主導で推進へ飼育環境の記載も義務づける 韓国では18年8月から、鶏卵に農家番号や飼育環境の番号を記載することを義務づけました。アニマルウェルフェアとの関係では後者の番号が重要で、「1番く放し飼い」「2番く平飼い」「3番く改善されたケージ(1羽あたり750平方センチ以上)」「4番く従来ケージ(1羽あたり500平方センチ以上)」と規定されています。3番はEUのエンリッチドケージの最低基準と同面積です。日本の1羽あたり専有面積は、こうした基準には全く到達していません。韓国はすごいな、と思います。

※筆者のHP「滝川康治の見聞録」https://takikawa-essay.com/ に本シリーズの過去記事を収録しています。ご参照ください。

「スーパーも「脱ケージ宣言」増える1羽あたりの飼育面積」 イギリスでは12年にバターケージが禁止され、1羽あたり専有面積750平方センチのエンリッチドケージが最低基準になってから、鶏卵業界は大きく変わりました。ケージ飼育が減り、屋外に運動場があるフリーレンジ(放し飼い)が増えた。ヨーロッパのなかでも英国は特異な展開をしており、放し飼いが主になっていきます。スーパーが集約化されて高級・大手・安売りの各スーパーごとに価格帯が違うのですが、

「脱ケージ宣言」はヨーロッパ全体で進んでいます。EU(欧州連合)には域内の市民百万人が賛成すれば法的規制を提案できる「欧州市民イニシアチブ」というシステムがある。18年9月には「ケージの時代は終わる」と題されたイニシアチブが登録され、19年6月までに110万人を超える署名を集めました。欧州委員会に正式な返信をして、これが法律として提案される予定です。

アメリカでは08年、カリフォルニア州で行なわれた住民投票で「畜産

動物の行動の自由を求める提案が承認されました。これにより13年にカリフォルニア州食料農業省(CDFA)のセクションが開始され、そこから大きく変わってきた。18年には「カリフォルニア州動物虐待防止法」の法律化が決まり、採卵鶏1羽の専有面積を最低929平方センチとする基準を決めたのです。カリフォルニアは米国のなかで人口が一番多いのですが、卵に関する文化の先頭を進むことで変わってきました。22年からは面積規定だけでなく、

ネット(巣箱)や止まり木も義務化され、採卵鶏業界に大きな影響を与えています。アメリカでは15年を境にケージフリーがすごい勢いで増え、直近では全体の23%を占めています。ロサンゼルスのコストコ(注) 米国に本社を置く会員制卸売・小売チェーン)では、ケージの卵は売っておらず、ケージフリーかオーガニック、パスタチャールレイズドです。

最近、ロサンゼルス周辺で調査した卵はケージ、ケージフリー、オーガニックの3ランクに分類され、スーパーによって価格に大きな差がありました。1ダースの平均価格は、ケージ2・51ドルに対し、ケージフリー(平飼い)3・63ドル、オーガニック4・65ドル、パスタチャールレイズド6・5ドル。アメリカには安売りスーパーがたくさんあり、ライフスタイルや生活状況に応じて使い分けていますが、ケージフリーの卵は特異なものではなく、全体の4分の1に迫る勢いになっています。



米国のロサンゼルス市内で売られていた「ケージフリー卵」のパッケージ (大木さん配布資料から)

20年前から動物福祉に配慮 英国並みの基準で取り組む 台湾では、2000年にアニマルウェルフェア食品の第三者認証「S

養鶏業界の生き残りを図る意味でも韓国政府が主導してこうした措置を講じているようです。ケージフリーに向けた取り組みを国主導でやる——日本でも、こういうふうにしなないと動かないのかな、と思います。台湾は企業や民間団体の力で動いていますが、韓国はアメリカのタイプに近いようです。イギリスは動物保護団体がベースになって活動してきた上に、一定の取り組みがあつてこまに進んできた。これから日本がどう進んでいくか、関係者の取り組みが問われています。

（20年8月22日、札幌市内で収録）